No.12

＋１（プラスワン）

〒658-0047　神戸市東灘区御影3-7-11
日本キリスト教団　東神戸教会牧師
2015年12月発行

「いつでも夢を」

牧師　横山順一

ＮＨＫ朝ドラ「あさが来た」。炭鉱夫たちに夢と希望を持って働いて欲しい主人公あさ。対して人夫頭が反論する。「夢は金持ちが持つものや！」と。

舞台は明治初期だ。テレビ向けに少々誇張された主人公像はあろう。炭鉱を買い取った側とそこで使われる側の落差は確かに大きい。

しかし、では二〇一五年の現在、誰もが夢と希望を持って働ける時代かと問えば、沈黙せざるを得ない。今も夢は「金持ち」が持つものに思えてならないのだ。

平等という言葉が遠くへかすむ今年、それでもまたクリスマスがやって来た。

クリスマスは誰のものなのか？もちろん、誰のものでもない。誰の上にもクリスマスは与えられる。

この季節、各地でイルミネーションの競演が続く。華やかさは年々増す一方である。

その先駆けとなったのは、神戸ルミナリエだろう。もともと震災の被災者を励ますために始まった行事だが、今年で二十一回目を迎えることになった。資金集めに苦労しながら、すっかり冬の神戸の風物詩となっている。

一度訪れたいと思い、神戸市民となったからには、とも思いながら、人混みが嫌で実現していない。

ただそれだけではなく、きらめく光にかき消される「陰」を知ったからでもある。

ルミナリエ会場すぐそば、東遊園地の噴水広場では、今年も神戸越年越冬活動が行われる。

他の共催団体とともに、日本キリスト教団兵庫教区・社会部委員会が年末年始の二日間を担当する。今年の予定は十二月三十日と来年一月四日となっている。

私は大阪・釜ヶ崎での越冬活動を体験して来たが、昨年から神戸が加えられた。

規模的には釜ヶ崎には及ばないが、それでも相当数の野宿者がおり、炊き出しを始めとする支援活動が欠かせない現実だ。

「陰」と書いたが、雑多感満載の釜ヶ崎と比べて、東遊園地は環境的には「明るい」。すぐそばで暗闇に圧倒的に輝くイルミネーションがあったと想像できない、あっけらかんとした空間で、奇妙な明るさの元、炊き出しに並ぶ人たちがいる。

クリスマスは誰のものでもない。イエスは、住民登録のためごった返す宿屋と離れた馬小屋で（すぐそばではあるが）、人間の喧騒とは違う、家畜たちの呼吸のなか生まれられた。

当時も夢は「金持ち」の持ち物だっただろう。ユダヤの片田舎に誕生した一人の赤ん坊のことなど、誰も知らなかった。

だが、たまたま知らされた羊飼いたちと異邦人の占星術の博士たちは、それを見て「夢」を与えられた。いつか誰もが命を喜んで生きる時代が来る！と。

余りにもうれしくて誰かれに伝え回ったに違いない。それが、いつであるか分からないとしても。

こうしていつしか、分け与えられた夢に皆がつながれて行くことになった。これがクリスマスである。いつでも夢を。

まだ来ない。が、それは見果てぬ夢ではない。金持ちの夢でもない。救い主を通して、必ず実現される希望。それを信じて交わそうではないか。メリー・クリスマス！